



7月よつばだより



富田林市立津々山台幼稚園

梅雨が明け、園庭のキュウリやトマトなどの夏野菜も大きく生長し夏を感じさせてくれます。

先日から保育室で育てているヒョウモンチョウの幼虫が次々に羽化しはじめました。黒に赤のトゲトゲでなんだか危険な生き物のように思う姿をしている幼虫です。子どもたちが担任から安全な生き物であるということを聞き育てていたものです。幼虫はやがてサナギになるのですが、飼育ケースの中だけでなく行方不明になり探している。と机の下やロッカー等でサナギになっていることもあります。「おめでとう!お誕生日おめでとう!」と無事に蝶になったことをお祝いする声や「元気でね!」と空に向かって飛んでいく姿を見送る子どもたちの声が聞こえてきます。

幼稚園では、ウサギをはじめダンゴムシ、カブトムシ、蝶の幼虫と様々な生き物を飼育しています。保育の中で小動物を飼育することは、ペットを飼うこととは違います。飼育をとおして図鑑等ではわからない直接自然から学ぶ姿勢が身についてきます。また、常に世話をすることで生き物への心配りや思いやることの大切さを実感することができます。さらに、観察力が身につく自然を見る目が育ちます。「飼育は自然を見つめる窓のようなもの。常にそこから大自然を見ようとすることが大切です。飼育は命の大切さの体得なのです。」(菅井 啓之氏)小中学校の学びにおいても、幼児期の自然体験の少なさが問われています。幼児期の自然体験は生活科や理科の基盤になるだけでなく、文学や音楽、芸術などのあらゆる分野に通じるものがあるようです。自然体験は情緒や感性を磨き人間の基礎を作る重要な役割を担っているのです。津々山台幼稚園では限りある園庭ではありますが、果樹や草花を育てる等環境を工夫し自然とかかわったり、生活や遊びの中で興味をもった遊びに自分から関わったり、思う存分取り組むことを大事にしています。もうすぐ夏休み!ご家庭でも様々な体験ができるといいですね。自然とのふれあいは人を豊かにしてくれることでしょう。

今月も子どもたちの体調管理に気をつけながら、夏ならではの体験を取り入れ楽しく元気に過ごしたいと思います。

園長 林 千香

